

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

年次総会は新庄村で開催しました。村の公民館に会員13名が集まり、事業報告や事業計画について協議すると共に、ソーラパネルの設置を巡る問題提起から話題が広がり、自然環境を保護保全するために重要なことは何か、について意見交換を行いました。参加者からは積極的な意見が出て、今後の活動が前向きに進められると期待できる雰囲気となりました。

活動は、正常化に向けて徐々に歩み始めています。会員の皆さんが、それぞれ興味ある活動に参加するとともに、それぞれの地元での活動を活発化させてください。観察会の企画運営、自然保護活動などについて、会員の皆さんと一緒に、協力していきたいと思っております。

年次総会の報告 昨年度の報告と、今後の活動を協議、議決した

- 開催日：2023年6月11日(日)
- 報告事項：2022年度活動報告
- 役員改選：2年ごとに改選、昨年度と同様に、世話役7名体制が了承された。
- 議決事項：2023年度の活動と会計報告
- 中国地方5県交流会(鳥取県)の概要
- 自然観察会や協賛行事の計画
- モニタリングサイト1000の活動、身近な環境問題などの報告と計画
- 指導員講習会の開催(予定)：NACS-Jの自然観察員講習会を来年3月に予定したいとの意志を示し、本部と協議中である。

今後の活動予定

○主催行事

第26回自然観察会—鯉が窪湿原の自然

山内哲夫

- 日時：8月27日(日) 10~15時
- 集合：鯉が窪湿原に10時
- その他：小雨決行。昼食、水筒持参
- 内容：「岡山県の生物多様性のホットスポットを訪ねて(4) 晩夏から初秋に花を咲かせる植物や水生動物などを観察する。
- 連絡、申込み：山内哲夫
tetsuo.yamauchi@ezweb.ne.jp

中国地方5県交流会(担当は鳥取県)と第27回自然観察会のお知らせ

- 開催日：9月16日(土)~17日(日)
- 場所：鏡ヶ成湿原、擬宝珠山
- 集合：鏡ヶ成13時。解散は17日13時
- 参加費：17,000円程度
- 内容：1日目は湿原の自然再生活動の現場視察と講演、2日目は擬宝珠山の登山。
- 宿泊：国民休暇村奥大山 鏡ヶ成
- 申込：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp
- 締切：6月末、氏名、性別、年齢(〇〇代、部屋割りの参考にするそうです)

第28回自然観察会—早秋の毛無山の植物

西本 孝

- 日時：2024年4月28日(日)
- 場所：毛無山(新庄村)
- 特徴：早春のブナ林の林床で開花する春植物を観察する。山菜料理の昼食弁当を楽しむ。
- 連絡先：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp

忘年会(または、新年会)

飲み屋で実施する予定です。詳細が決まればお知らせします。

自主活動や協賛行事

会員がそれぞれの地域で、調査を実施したり、自然観察会を開催したりするようになっていきます。会員の皆さんが相互に参加できるように、西本まで情報をお寄せください(上記のアドレスに)。会員の皆さんに随時発信していきます。

標高 700m ほどのビジターセンター駐車場に集まった 18 人、自然観察ガイドボランティアさんや連絡協議会の方など、若いお嬢さんたちの姿もあって華やか。

早速、川沿いに歩を進める。サンインシロカネソウは工事の度に土に埋もれ数年で回復する、攪乱に強い草だそう。枝先にガクアジサイのような楚々とした花をつけているのはオオカメノキ。対生のしぼしぼの葉も美しく、お茶室ではムシカリと呼んで親しんでいる。遺伝子レベルでの分類が進みスイカズラ科からレンブクソウ科、ガマズミ科と分類が揺らんでいるそう。やさしい新芽を強い紫外線から守るために、木々は日焼け止めクリームに代る赤い色素・ポリフェノールを用意しているようで、後に見たブナの小さな黄緑色の葉は赤く縁どられていた。足元にはミヤマカタバミの閉じた白い花が点々とする。下山する頃には開花した姿が見られるだろう。トキワイカリソウが精緻な花をつけ、タチツボスミレの青紫の花、ミヤマキケマンの黄色に交って、地味ながらも精いっぱいの花柄を立てたコチャルメルソウが群生している(写真1)。エンレイソウは花を終えて果実を結ぶ(写真2)。3枚の大きな葉はまるで貴婦人のドレスのようと思っていたが、花が終わり大きな葉の下に細い茎がすくくと伸びた様子はバレリーナだ。



写真1. コチャルメルソウの花。特殊化した花弁が目を引く。



写真2. 果実を結んだエンレイソウ。



写真4. ハシリドコロを見つけて、リストで確認した。



写真3. スギ林の中を鳥の鳴き声を聞きながらゆっくり登った。

スギ林ではオオルリが高い声を響かせていた(写真3)。ヒガラの早口が降り、沢にはミソサザイの転るようなさえずり。2年前の7月に私は歩行中に突然、右膝の半月板変形断裂を経験。平地をゆっくり歩くには支障がないため手術はしておらず、この日は怪我の後、初めての登山。2本のストックに全体重を預けて登るが、皆さん、なんと足の速い事か！絶え間なくゴジュウカラのさえずりを聞く山道にキクザキイチゲの花。オオタチツボスミレの花、ハシリドコロの花も見える(写真4)。徐々に遅れ始め引き返そうと思うが、H氏に「もう少しだから上りましょう」と励まされ、5合目の毛無大岩を過ぎる。そこにニホンジカに噛み千切られたスゲの株がある。雪解けと同時に出たやわらかな葉を齧ったようで、先端の齧り痕はどの株も黄色く変色していた。眼下に清流が見える場所でチャボガヤとハイイヌガヤの説明。チャボガヤの葉の先端は触ると痛い、ハイイヌガヤは触っても痛くないそう。どちらも雪深いところに生息して幹はしなやか、大きくはなれない。説明の合間にチッチチカラララと聞こえるのは藪に生息するコルリ。沢沿いの下草はシカの食害か、藪が少ない。ブナのなめらかな木肌には地衣類が模様を作っている。ミズナラのごわごわと縦に割れた幹の

スギ林ではオオルリが高い声を響かせていた(写真3)。ヒガラの早口が降り、沢にはミソサザイの転るようなさえずり。2年前の7月に私は歩行中に突然、右膝の半月板変形断裂を経験。平地をゆっくり歩くには支障がないため手術はしておらず、この日は怪我の後、初めての登山。2本のストックに全体重を預けて登るが、皆さん、なんと足の速い事か！

絶え間なくゴジュウカラのさえずりを聞く山道にキクザキイチゲの花。オオタチツボスミレの花、ハシリドコロの花も見える(写真4)。徐々に遅れ始め引き返そうと思うが、H氏に「もう少しだから上りましょう」と励まされ、5合目の毛無大岩を過ぎる。そこにニホンジカに噛み千切られたスゲの株がある。雪解けと同時に出たやわらかな葉を齧ったようで、先端の齧り痕はどの株も黄色く変色していた。眼下に清流が見える

場所でチャボ



写真5. 新緑の進む樹林内で、参加者の集合写真を撮影した。

違いを見た後、カツラの木の方へ移動されるのをしり目に一人で下山を始めた。登りはともかく下りは不安で、静かな山道を一步ずつ丁寧に下りた。木立に覆われて気温は14.5度。ウグイスが谷渡りを響かせるとミソサザイが高らかに唱和する。ヒガラやコガラの声も交じる。時折、タゴガエルの鳴き声。麓でミソサザイの声に迎えられて無事に下山。

山の家で観察会のまとめの後、山菜弁当が配られた。コシアブラやコゴミの天ぷら、クレソンの胡麻和えは絶品！ 固めに焚かれたご飯もおいしく、ふと隣のお嬢さんの弁当を覗くと、白米の上に色鮮やかな梅干しが載っているではないか？ 食べたかった！

観察した鳥 アオゲラ(ビジターセンター)、ウグイス、キセキレイ、ヒヨドリ、オオルリ、ヒガラ、ミソサザイ、アカゲラ？ケラ類1、ゴジュウカラ、コルリ、コガラ、コゲラ、ツツドリ、ソウシチョウ、シジュウカラ 獣；ニホンジカ

場所：新庄村田浪地区採草地（ウスイロヒョウモンモドキ保全地域）

時間：13時30分～15時30分

参加人数：14名（一般参加2名含む）

現在ウスイロヒョウモンモドキ(蝶)の保存保全のため、新庄自然保護連絡協議会で整備ならびに6～7月には生態調査及び卵塊調査をしている採草地で生息環境の現状視察を兼ねて観察会を実施した(写真1)。

当該蝶は、2004年の調査では約90頭の成虫の個体を確認できていたが2015年にわずか7頭の確認を最後に成虫の確認ができていない。

保全整備の目的は、草原の生物多様性を保ち多くの生きものが育ち暮らす環境を維持することで、幼虫が捕食するカノコソウならびにオミナエシの生育環境も守るべく、毎年秋に除草並びに集草を実施している(写真2)。

また、食草の生育領域を広げるため、周囲の樹木伐採も実施している。今回の観察会で、カノコソウの生育範囲が広がっていること、また樹木伐採域でカノコソウの発生を見ることができた。カノコソウを詳細に観察し、1年葉と2年葉の形状の違い、花をつけるまでの成長の過程を比較して観察した。また、地下茎による株分かれや種子からの発芽もでき、水分のある程度多い湿った場所を好むことを教わった(写真3と4)。

採草地では、蝶の成虫の食草であるオカトラノオやアザミなども確認できた。環境改善の課題としては、食草の成長を妨げていると思われるワラビの除去や、伐採した樹木からの萌芽をあと数年は除伐し続けなければならないと思われる。

理想としてはかつて蝶が乱舞していた頃に実施していた採草地の利用状況を再現することで食草が保全されると思われる。

自然観察後、現在環境省の指導の下、当協議会会員の臼井さんが域外飼育を行っているウスイロヒョウモンモドキの現状を視察し、年間を通して命を繋ぐ飼育の苦労話をうかがった。



写真1. 田浪キャンプ場で、採草地の概要について勝部さんから説明を受けた。



写真2. 田浪採草地の様子。採草地に植えられたハルニレの大木(写真右奥)



写真3. カノコソウは、水分が集まりやすい地形を好むことを観察した。



写真4. カノコソウは、花茎近くの地表面に多数の根生葉が出ていることを観察した。